



令和8(2026)年度のESD業務 事務局案 説明資料

2026年5月29日

第1回 EPO中部・中部地方ESD活動支援センター運営委員会

中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部) / 中部地方ESD活動支援センター

■ ESD業務2026の主催会議・会合等（案）

| 区分 | エリア | 設営 | 時期 | 参加者数想定 | テーマ／内容等 | 連携先／関係者／登壇者等 |
|--|-------------|----------|---------|--------|---|---|
| 62 ESD推進ネットワーク地域フォーラム | 名古屋 | ハイブリッド | 9~10月頃 | 30名程度 | 第7期共通テーマ ：社会と学校のESDネットワーク 2026年度テーマ 「ESD：探究学習と地域連携パート2」 探究学習と地域の連携に関する話題提供とディスカッション | <ul style="list-style-type: none"> 基調講演 地域ESD拠点など、学び合いプロジェクト有識者検討会メンバー 話題提供： コメンテーター：加藤隆弘先生（金沢大学） |
| 65 自然資本等（ジオ・エコパーク、世界遺産、世界農業遺産等）活用によるESD促進 | 北陸（石川県珠洲市?） | ハイブリッド | 9~11月想定 | 30人程度 | 昨年度実施した石川県珠洲市でのヒアリングを継承、珠洲市での開催を検討 2011年6月に日本で初めて世界農業遺産（GIAHS）に認定された「能登の里山里海」を含む自然資本を基盤に「NPO法人能登半島おらっちゃんの里山里海」中核とする。 | <p>（想定）</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元活動団体（NPO法人能登半島おらっちゃんの里山里海） 市役所担当課 金沢大学加藤先生、信州大学水谷先生 |
| 66 SDGs学生サミット | 春日井 | オンライン・配信 | 2/14 | 100名程度 | ユースに対するSDGs活動交流を通じたESDの場の設営 ・学生、生徒の取組発表、社会人の話題提供 ・交流ディスカッション | <ul style="list-style-type: none"> SDGs関連活動に取り組む大学生、高校生、地域連携など 基礎自治体、企業、NPO等のSDGs取組運営委員に対するディスカッションファシリテーターの依頼 総括：伊藤恭彦運営委員会座長（名古屋市立大学） |

■ ESD業務2026ヒアリング（案）

| 区分 | 対象 | 内容等 |
|---------------------------------|---|---|
| 6-1 多様な主体の連携促進、交流機会の提供 | 高校探究学習気候変動教育計画 ○アンケート ユネスコスクール34校に対しての実施を想定 ○ヒアリング 5校程度を想定、ヒアリング対象となる高校は7県のバランス及びユネスコスクール登録校を考慮して選定 | <ul style="list-style-type: none"> • 高校の探究学習に関するアンケート、ヒアリング 総合探究学習の実践状況と、気候変動教育の導入可能性を中心とし、探究テーマに取り上げてもらうためのニーズを探索すること主目標とする。このため気候変動教育導入の入口として、地球温暖化そのものだけでははく「食」、「農」、「交通」、「ゴミ」、「防災」、「電気」、「水（循環）」、「里山」など身近な事象が地球環境に関連していることを示せることをヒアリングの前提に盛り込む。 • 3カ年度工程表の作成 20校程度の気候変動教育を実施するための工程表、実現可能性、目標達成のための方策、課題等を取りまとめる。 |
| 6-7 ESD推進のための教育現場等の実態把握と連携強化 | 専門家1名（案） （案）EPO中部ESDC運営委員の水谷瑞希先生、など | <ul style="list-style-type: none"> • SDGs 取組、ESD 実践の推進状況に詳しい専門家に包括的ヒアリングを行い、専門領域との連携強化を図る |
| | 教育部局・教育委員会・教員等2名 （案）北陸ESDコンソーシウム、信州ESDコンソーシアムの教育委員会関係者、など | <ul style="list-style-type: none"> • SDGs を推進しようとする教育部局、教育委員会、現場の教員等を対象としてヒアリングを実施し、実態把握及び次年度の事業に向けた実施手法、連携の情報収集を行う。 |
| | 企業経営者ヒアリング2名（案） （案）株式会社マルワ鳥原氏、八洲建設株式会社産官学連携事務局 宮澤氏、など | <ul style="list-style-type: none"> • 中小企業の経営に沿った観点からの ESD 促進を図るため、経営者等を対象としたヒアリングを実施し、情報収集を行う |

主催会議・会合等

ESD推進ネットワーク地域フォーラム

- 目的：ESD活動の情報共有と意見交換
- 第7期共通テーマ：社会と学校のESDネットワーク
2026年度テーマ：「ESD：探究学習と地域連携パート2」
- 内容：探究学習と地域の連携に関する話題提供とディスカッション
- 時期：2026年9月頃13:00～15:40（ふりかえり交流～16:30）
- 対象：一般参加者、中部地方ESD拠点、関係ステークホルダー
- 開催方法：ウインクあいちなど、ハイブリッド

プログラム案（内容は仮置き）

第1部＜オープン開催＞

- 基調講演 ESDとしての探究学習
- 話題提供 ①高校の探究学習事例
②地域との連携の事例（例：エコプランふくい）
③中部地方ESD活動支援センターによる情報提供

第2部＜オープン開催＞

- 交流ディスカッション
- 総括 加藤隆弘 金沢大学准教授

第3部＜クローズ開催＞

- ふりかえり交流
 - ・地域ESD拠点による事例報告など
 - ・ESD推進ネットワーク 登壇者、地域ESD拠点団体による意見交換
- コーディネーター（案）古澤礼太 中部大学国際ESD・SDGsセンター長 教授

参考）中部の地域ESD拠点登録団体

- ①一般社団法人 長野県環境保全協会
- ②信州ESDコンソーシアム
- ③名古屋ユネスコ協会
- ④「なごや環境大学」実行委員会
- ⑤一般社団法人日本体験学習研究所
- ⑥豊橋ユネスコ協会
- ⑦一般社団法人ネクストステップ研究会
- ⑧石川県ユネスコ協会
- ⑨岐阜県ユネスコ協会
- ⑩中部ESD拠点協議会（国連大学認定RCE Chubu）
- ⑪特定非営利活動法人 地域の未来・志援センター
- ⑫根羽村森林組合
- ⑬特定非営利活動法人大杉谷自然学校
- ⑭特定非営利活動法人エコプランふくい
- ⑮一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PECとやま)
- ⑯勝山市
- ⑰富山ユネスコ協会
- ⑱一般社団法人グローバル愛知
- ⑲加山興業株式会社
- ⑳ななお SDGsスイッチ



自然資産を活かしたESDダイアログ2026 (石川県珠洲市を想定)

第7期 (令和6年度～8年度) 共通テーマ：山と水と人間と

■ 目的

地域の自然を題材とした保全活動、観察会、観光などの活用の現状、および関連地域のESD活動や環境学習活動等の紹介を踏まえつつ、学校教育、社会教育、地域づくりなどで活動する教育関係者の学び合いの場を設定し、ESDの自然教育現場、地域づくり現場への定着を促す。

■ 珠洲市で実施する意義

- 世界農業遺産「能登の里山里海」を有する地域
- 自然と暮らしが結びついた地域づくりの実践
- 震災・豪雨災害を経て、人と自然・地域内外のつながりの再構築が課題

■ 実施イメージ

- 現地関係者を中心とした小規模対話型プログラム
- 震災・豪雨復興を踏まえ、地域負担に配慮した実施
- オンライン配信等による広域的な情報発信

■ 期待される効果

- 地域活動や自然資源の価値の再共有
- 地域内外の関係性の再接続
- 持続可能な地域づくりに関する学びの共有



<開催概要案>

【主催】中部地方ESD活動支援センター(環境省EPO中部)

【後援】珠洲市、珠洲市委員会(想定、要依頼)

○場所:石川県珠洲市

○対象:自然資産関係者、地域づくり人づくり、教育関係者(オンライン併用)

○開催期日 2026年10月～11月

○プログラム

1日目ESDダイアログ

- ・基調講演 水谷瑞希先生(信州大学)、加藤隆弘先生(金沢大学)
- ・地元の関係者による話題提供
地元活動団体(NPO法人能登半島おらっちゃんの里山里海)など
- ・パネルディスカッション 他

2日目エクスカッション

- ・世界農業遺産の状況
- ・被災からの復興状況 他

昨年度実施した石川県珠洲市でのヒアリングを継承、珠洲市での開催を検討。2011年6月に日本で初めて世界農業遺産(GIAHS)に認定された「能登の里山里海」を含む自然資本を基盤に「NPO法人能登半島おらっちゃんの里山里海」などによる地域の取組紹介等を中核とする。

SDGs学生サミット

- テーマ：ESD・地域・学校と大学連携
- 目的：SDGs活動の発表と議論
- 時期：2027年2月14日（日）13:00～17:30
- コア参加
 - ・SDGs関連活動に取り組む大学生、高校生、高大連携、世代間連携など
 - ・基礎自治体、企業、NPO等のSDGs取組
- 開催方法：オンライン（ハブ：中部大学DEルーム）



高校生、大学生グループ発表者が作成した連携図とSDGs関係図（事例）

愛知県立愛知商業高校 みつばちプロジェクト



金沢星稜大学 商店街を拠点とした持続可能なまちづくり



グループディスカッションのホワイトボード（Bチーム）



主催：中部地方ESD活動支援センター（環境省EPO中部内）
 協力：中部大学中部高等学術研究所、国際GISセンター

ESD業務2026ヒアリング

■ 多様な主体の連携促進、交流機会の提供 (高校探究学習気候変動教育計画策定)

- アンケート：
ユネスコスクール34校に対しての実施を想定
- ヒアリング：
5校程度を想定、ヒアリング対象となる高校は7県のバランス及びユネスコスクール登録校を考慮して選定

(仕様書：ユネスコスクールなど中部地方の高校20件以内)

気候変動教育導入に向けた実態把握と今後の展望 (イメージ図)



- 高校の探究学習に関するアンケート、ヒアリング
総合探究学習の実践状況と、気候変動教育の導入可能性を中心とし、探究テーマに取り上げてもらうためのニーズを探索すること主目標とする。
このため気候変動教育導入の入口として、地球温暖化そのものだけではなく「食」、「農」、「交通」、「ゴミ」、「防災」、「電気」、「水(循環)」、「里山」など身近な事象が地球環境に関連していることを示せることをヒアリングの前提に盛り込む。
- 3カ年度工程表の作成
20校程度の気候変動教育を実施するための工程表、実現可能性、目標達成のための方策、課題等を取りまとめる。



■ ESD推進のための教育現場等の実態把握と連携強化（ヒアリング）

専門家1名

（案）EPO中部ESDC運営委員の水谷瑞希先生、など

- SDGs 取組、ESD 実践の推進状況に詳しい専門家に包括的ヒアリングを行い、専門領域との連携強化を図る
【高校探究学習気候変動教育計画策定の背景把握を中心に】

教育部局・教育委員会・教員等2名

（案）北陸ESDコンソーシアム、信州ESDコンソーシアムの教育委員会関係者、など

- SDGs を推進しようとする教育部局、教育委員会、現場の教員等を対象としてヒアリングを実施し、実態把握及び次年度の事業に向けた実施手法、連携の情報収集を行う。
【高校探究学習気候変動教育計画策定の背景把握を中心に】

企業経営者ヒアリング2名

（案）株式会社マルワ鳥原氏、八洲建設株式会社産官学連携事務局 宮澤氏、など

- 中小企業の経営に沿った観点からの ESD 促進を図るため、経営者等を対象としたヒアリングを実施し、情報収集を行う